



仙台市総合計画審議会における審議経過(再修正案)

本資料は、仙台市総合計画審議会におけるこれまでの審議の内容を整理し
大要をまとめたものです。

今後、さらに具体的な内容について審議を進めていきます。

令和元(2019)年7月

仙台市総合計画審議会

~~~~~ 仙台市総合計画審議会の経過 ~~~~~

|     | 開催                    | 主な議事                                                                                                                                                                                    |
|-----|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 平成30(2018)年<br>10月31日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○審議会の運営に関する事項について</li> <li>○新総合計画について</li> <li>○現計画の振り返りについて</li> <li>○新総合計画の策定に係る市民参画事業・広報について</li> </ul>                                       |
| 第2回 | 平成30(2018)年<br>11月28日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○本市の総合計画の沿革と市政のあゆみについて</li> <li>○本市の将来見通しと主要な論点について</li> <li>○新総合計画における都市像と施策の方向性について</li> </ul>                                                 |
| 第3回 | 平成31(2019)年<br>1月31日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民参画事業について</li> <li>○都市像と施策の方向性について</li> </ul>                                                                                                  |
| 第4回 | 平成31(2019)年<br>3月26日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成30(2018)年度 区民参画イベントについて</li> <li>○仙台市総合計画審議会における審議経過について</li> <li>○平成31(2019)年度 審議会日程について</li> <li>○平成31(2019)年度 市民向け広報・市民参画事業について</li> </ul> |
| 第5回 | 令和元(2019)年<br>5月27日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○仙台市総合計画審議会における審議経過について</li> <li>○部会の設置について</li> </ul>                                                                                           |
| 第6回 | 令和元(2019)年<br>7月10日   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○仙台市総合計画審議会における審議経過について</li> <li>○市民参画事業について</li> <li>○部会委員について</li> <li>○テーブルディスカッション</li> </ul>                                                |

# I 計画策定の考え方

## 1 計画策定へ向けて

総合計画は、本市が目指す都市像とその実現に向けた施策の方向性を示すまちづくりの指針となるものです。まちづくりは行政だけで進めるものではなく、市民やNPO、教育機関、企業などの様々な主体とともに取り組む必要があり、皆が進むべき方向性を共有するために、策定するものです。

本市はこれまで、戦後以降の人口増加、高度経済成長を背景とした都市インフラの拡大や政令指定都市への移行に象徴される「成長期」、そして、市民の価値観の多様化やグローバル化などの環境変化に伴い、物質的な豊かさを追求する量的拡大から質的な心の豊かさを志向する「成熟期」へと、その歩みを進めてきました。

近い将来、確実に迎えることとなる人口減少の影響や、ますます進むであろうグローバル化、さらにSDGs<sup>※1</sup>において掲げられる持続可能性など多様な視点におけるまちづくりが求められます。そして、さらなる高度情報化やテクノロジーの進化、それらによる日常生活における新たな価値の創出など、私たちの社会環境・生活環境は大きく変わることが予想されます。

そのような時代だからこそ、都市として将来にわたって大切にしたい確かなまちづくりの理念を持ち、市民と共有し、その上で、多様な価値観を活かし、テクノロジーを使いこなすといった、新たな文化への順応と挑戦の気概がより一層重要になってくると考えます。これまで先人が培ってきた都市の資産や知恵を活かしながら、多様な主体が持てる力を発揮できる、「次なる時代」を生き抜くための都市力を高めていかなければなりません。

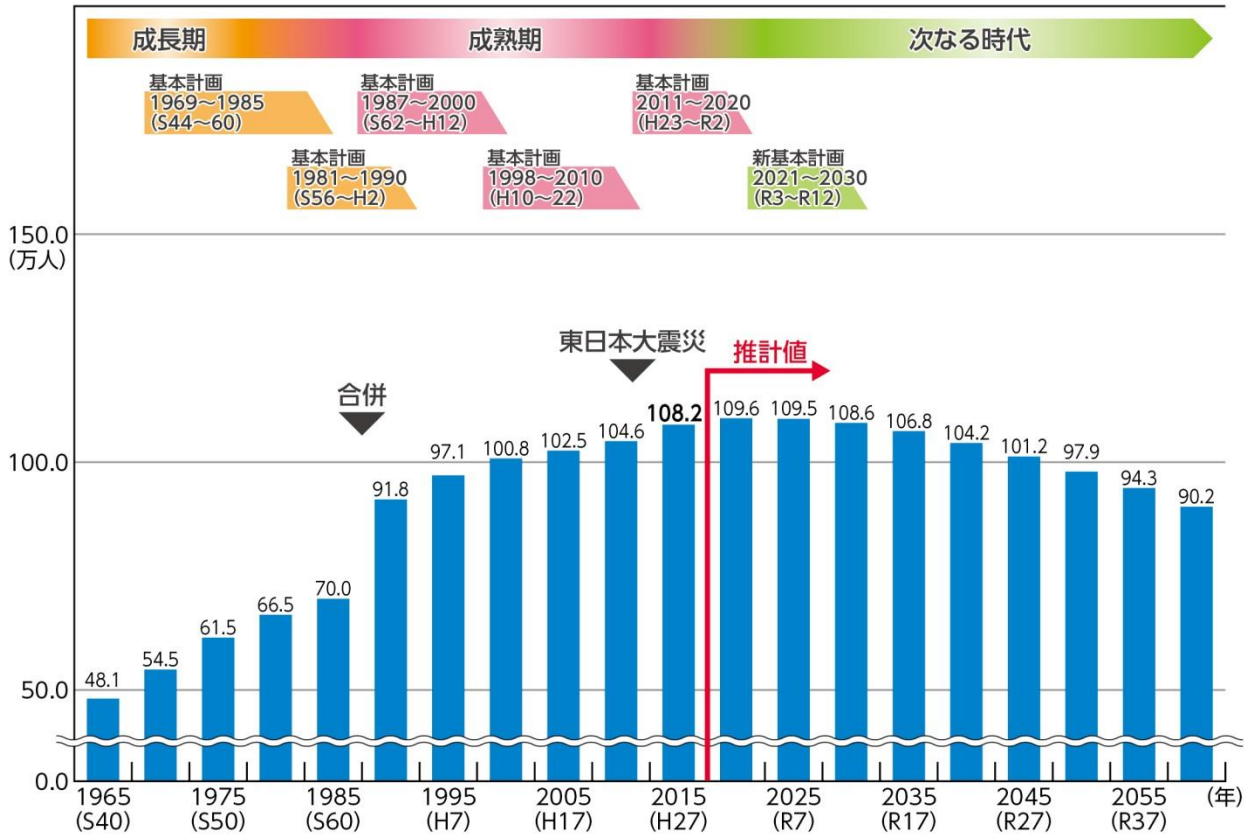
また、日本全体は既に人口減少が始まっており、今後一貫して減少するとの見込みの中、特に東北地方は落ち込みが激しいと予測されています。本市の人口は2020年頃をピークとして減少局面を迎えようとしています。人口減少のスピードは比較的緩やかで、東北における本市の人口シェアを含め、中枢としての役割はますます高まると見込まれることから、今後は東北から見た仙台、世界から見た仙台の視点もより必要となってきます。

このような時代背景も踏まえながら、本市では誰もが豊かに暮らせる仙台への未来に向けたまちづくりを進めていきます。

※1 SDGs（エスディージーズ）

2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの持続可能な開発目標。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成される。

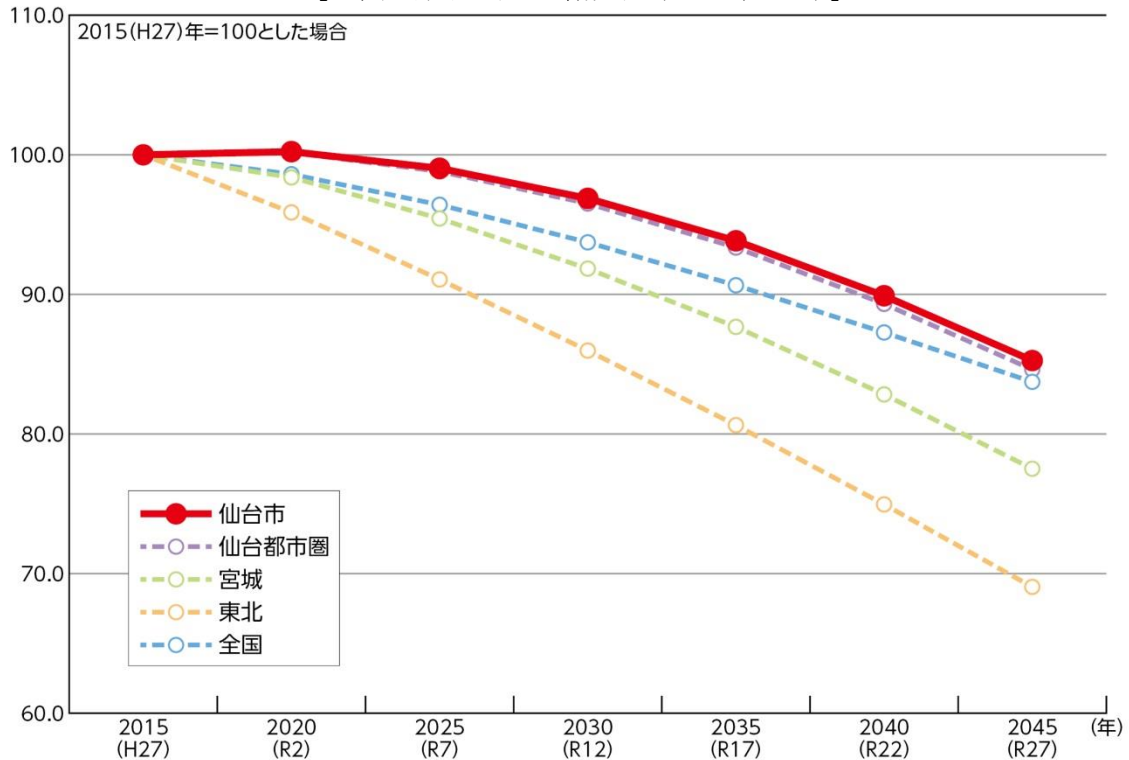
【仙台市の人口推移と将来の見込み（1965～2060年）】



出典：国勢調査結果（総務省統計局）、まちづくり政策局資料

注：各年10月1日現在。将来推計人口は平成27年10月1日時点の国勢調査人口をもとに、コーホート要因法により本市が独自に推計。合計特殊出生率は、過去の傾向を勘案し、1.27で一定で推移。社会移動率についても同様に、年1.29%ずつ減少するものと仮定。

【全国・東北の人口増減率（2015年=100）】



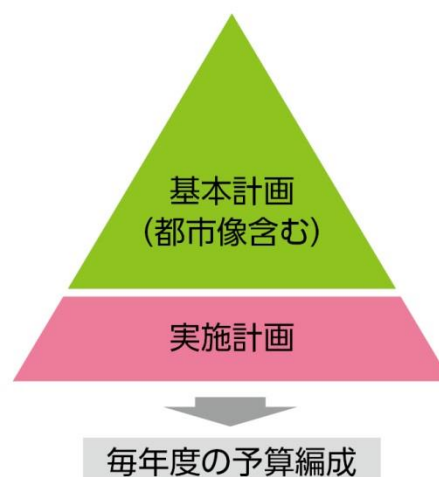
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）－平成27～57年」

注：仙台都市圏とは、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村の14市町村

## 2 計画の体系

新総合計画は、21 世紀半ばを見据えた目標とする都市像と、これを実現するために取り組む施策の方向性を総合的・体系的に示した「基本計画」、目標を着実に実現していくための3年間の計画期間を基本とする「実施計画」で構成しています。

時代変化の流れが速い中、長期的展望に立ったまちづくりを進めていくため、その時々における時代の潮流を見極めながら実施計画や毎年度の予算編成において柔軟に対応していきます。



## 3 計画期間

「基本計画」の初年度を令和3年度（2021年度）とし、計画の実効性を担保する観点から計画期間を10年間とすることを踏まえて、目標年次は令和12年度（2030年度）とします。

「目指すべき都市像」については、行政運営の長期的な指針となるものであり、高齢者人口の増加が落ち着くと予想される時期であることも考慮し、21世紀半ば（2050年頃）を見据えることとします。

## Ⅱ 新たな杜の都に向けて

### ～都市像とまちづくりを進めるうえで大切にしたい価値観～

本市には、開府 400 年を超える歴史資産である杜の都の都市環境や、多くの若者が集う学びの機能集積としての学都、健康都市宣言に始まり福祉のまちづくりを醸成してきた共生の理念、東北唯一の政令指定都市として持つ中枢機能と広域性、宮城県沖地震や東日本大震災からの復興を通じて培い、世界に発信してきた防災力の高いまちづくりなど、誇るべき都市個性があります。

それらは、困難な状況に直面してもなお、より良いまちをつくりたいと行動を起こしてきた先人の想い、市民力があつたからこそ築き上げられたものであり、市民協働によるまちづくりの積み重ねもまた未来へ活かしていきたいかけがえのない本市の財産であるといえます。

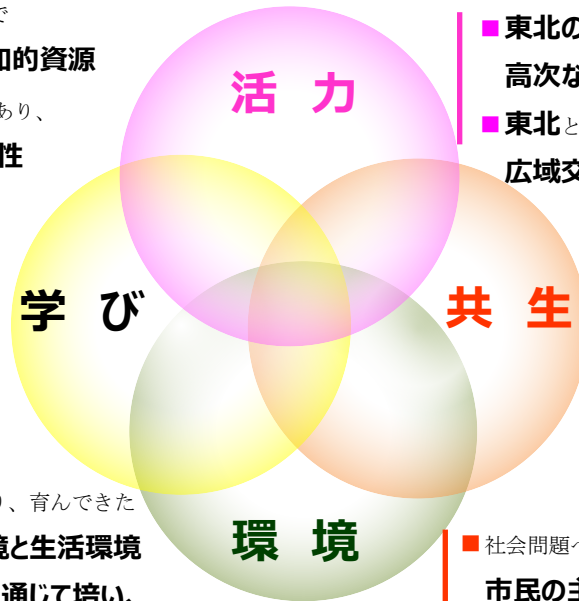
「まち」とは、建築物や環境資源のような空間を形作っているものだけではなく、その地に住まう人々、まちを行き交う人々の内面や行動をも包含しているものです。

「成熟期」から「次なる時代」へと都市が発展を遂げるためには、これまで培った都市個性の質を高め伸ばしていくだけでなく、それらの個性を掛け合わせ、相乗的な効果を生みながら、まちづくりを進めていくダイナミズムが必要です。豊かな自然環境と都市機能が調和した都市空間を基盤に、多様な主体がそれぞれの価値観を認め合い、学び合い、目標に向かって何度もチャレンジすることができる都市風土を作り上げ、仙台の希望ある未来と東北をけん引する活力と魅力を生み出していくことが重要です。

このまちが培ってきた市民協働の理念のもと、「環境」「共生」「学び」「活力」の4つの都市個性を掛け合わせ、活かし合う、まちづくりを進めるうえでの価値観を市民共有のものとし、ともに創意工夫と挑戦を重ね、仙台が仙台らしく輝ける新たな杜の都を目指します。

## 4つの都市個性を活かした新たな杜の都へ

- 恵まれた都市環境のもとで  
集積された質の高い知的資源
- 学びの機会が身近にあり、  
学びに積極的な市民性



- 東北の中核を担う都市としての  
高次な都市機能
- 東北と世界をつなぐ  
広域交流起点・経済活動の中心

- これまでの歴史の中で守り、育んできた  
美しく快適な自然環境と生活環境
- 幾度の大災害から復興を通じて培い、  
世界に発信してきた防災力・安全なまちづくり

- 社会問題への取り組みを通じて形成された  
市民の主体的な行動力
- 多様な価値観を尊重し合う  
市民参画のもと築かれた共生の礎

## 都市個性

## 環境

### <背景>

仙台の代名詞である「杜の都」の由来は、藩祖伊達政宗公が、飢餓対策や建築資材確保を目的とした植樹を奨励したことに端を発し、明治末期頃から呼ばれるようになりました。この言葉には、「神社や寺、屋敷のまわりを取り囲んでいる緑、人々が丁寧に手入れをしてきた緑こそが仙台の宝」という景観はもちろんのこと、それを育ててきた人々の想いが込められています。



現代の「杜の都」は、戦災から復興する中で「杜の都の再生」を目指し、整備された都市公園や植樹された青葉通、定禅寺通のケヤキ並木に象徴されますが、発展目覚ましい高度経済成長期においても、「杜の都」のかけがえのない資産である青葉山や広瀬川などの美しい自然や生活環境は市民により守られ、受け継がれてきました。現在は、東日本大震災からの「より良い復興」を目指し、被災した東部地域の再興など新たなまちづくりが始まっています。自然と調和した住みよい暮らしの実現を原点とし、困難に直面しても、市民とともに新たな息吹を吹き込みながら未来を創る「杜の都」の理念は、仙台のアイデンティティであり、より良い形で次の時代に引き継いでいくことが求められています。

### <目指す方向性>

東日本大震災の教訓を活かし、災害への備えを基盤とした本市ならではの防災力の高いまちづくりを進めるとともに、豊かな自然環境を活かし、市民とともに質の高い生活を営むためのさらなる快適性や交流を生み出す、風格と品格のあふれる都市環境の構築を目指します。

## 都市個性

## 共生

### <背景>

1960年代以降、高度経済成長により飛躍的な発展を遂げる中においても、顕在化してきた過密や公害、交通問題などの対策に積極的な姿勢を打ち出し、市民の誰もが健康なまちづくりを志向してきました。加えて、生活圏拡張運動において障害のある方の声が直接反映され、バリアフリーのまちづくりが本市から全国にまで広がるなど、市民の市政への参画のもと共生の礎が築かれてきました。1980年代の粉じんによる健康被害を防ぐべくスパイクタイヤを全廃に導いた取り組みなども、このまちの住みよさを守り続けてきた市民主体の行動力を示す象徴的な取り組みです。



少子高齢化の進展や家族形態の変容など時代環境に合わせた住みよい地域共生社会の構築とともに、障害のある方や外国人、性のあり方など、多様な価値観の存在を、社会全体として包摂し、超えるべきバリアではなく、自らの人生や暮らしを豊かにする要素として誰もが積極的に捉える視点が求められています。

### <目指す方向性>

世代や性別、国籍を問わず、誰もが多様性を尊重し、支え合い、価値観や経験を積極的に活かす機会が高まり、生涯を通じて健やかに安全・安心に暮らし、活躍できる共生社会を目指します。



## 都市個性

## 学 び

### <背景>

本市は、教育機関が集積し学びの環境が充実している「学都・仙台」と呼称されていますが、初見は明治末期であり、学制公布以降に公教育機関のほかに私立の男女教育機関や実業学校も多数創設されたことから、「学都」と呼ばれるようになったとされています。これには、伊達家の文芸を尊ぶ気風が仙台に根付き、豊かな緑に包まれている学びの場にふさわしい都市環境の中で育まれたことで、学問に積極的な基盤がつくられてきたという背景があります。



このような本市の有する恵まれた都市環境のもとで集積された質の高い知的資源と、学術を受け入れやすい風土は都市としての強みであり、現在も総人口に占める大学、短大の学生数は政令指定都市の比較においても上位にあることから、大学はもとより、東日本大震災以降に高まりを見せている若者の社会のためにという機運を十分に活かしたまちづくりが求められています。

### <目指す方向性>

多様な学びの場、学校や地域等との交流を通じて、将来を担う子どもや若者が心豊かにたくましく成長できる環境を整えるとともに、学都の持つポテンシャルやネットワークを最大限に活かすことで、多様な人材が集い、挑戦し、挑戦から学ぶ、創造的な学びの実践がまちづくりにつながる環境の構築を目指します。

## 都市個性

## 活 力

### <背景>

本市は、高度経済成長期における発展と、1970年代以降に続々と完成する高速道路や新幹線、機能を充実させていく仙台港や仙台空港による地域拠点という特色の強まりを背景に、「第三次全国総合開発計画」において東北地方の中核管理機能を担う都市に位置付けられてから今に至るまで政治的・経済的・社会的にその役割は増しています。



本市が持つ都市機能は、首都圏と東北各地との結節点として、自治体の枠を超えた広域的なものであり、加えて、東北の人口減少が顕著であり活力維持への懸念が広がっている背景を踏まえ、東北各地から多くの学生が集まる、活力創出の要としての責任とともに、日本、ひいては世界と東北をつなぐ交流の起点、経済活動の中心としての役割を果たしていくことが求められています。

### <目指す方向性>

高次な都市機能を有し、広域的な視点のもと東北の発展を支える活力あふれる産業活動が展開され、多様な雇用の機会を創出するとともに、新たな挑戦の機会を求める起業家などの創造的な人材をひきつけ、世界とつながり、誰もが楽しめる多彩な交流基盤が確立している活力を持続的に生み出すまちを目指します。

### Ⅲ 重点的な取り組みの視点

「まち」の質を高め、新たな価値を創出するためには、近年、進展著しいテクノロジーを身近なものとして、また、東日本大震災を契機として見られる、顕在化する様々な社会課題への解決志向の高まりなどを本市の強みとして取り入れ、最大限に活かしていくことも必要となります。

仙台が仙台らしく輝ける「新たな杜の都」の実現へ向けて、これまで育んできた都市個性とともに、こうした動きも本市の強みとして活かしたまちづくりを進めるため、以下の7つの重点的な取り組みの視点に基づき政策形成に向けた議論を進めていきます。

#### 視点①

仙台を磨き伝える ～世界に輝く杜の都の深化と継承～

#### 視点②

仙台でともに生きる ～多様性が生きるまちの実現～

#### 視点③

仙台で暮らす ～地域コミュニティの強化～

#### 視点④

仙台で育つ ～子ども・子育て応援まちづくり～

#### 視点⑤

仙台で学ぶ・活かす ～学びの環境づくりとチャレンジ応援～

#### 視点⑥

仙台で働く ～働く場所として選ばれる環境づくり～

#### 視点⑦

躍動する仙台を創る ～都心再構築と交流都市づくり～

## 視点① 仙台を磨き伝える ～世界に輝く杜の都の深化と継承～

### ● 視点（未来の状況）

自助・共助・公助が浸透した世界に誇れる防災力を持ち、豊かな自然環境を活かした快適で品格のある都市環境が構築された、世界に類のない個性的な都市ブランドの確立を目指します。

### ● 施策形成の背景

国においては、国際社会におけるSDGsの取り組みをけん引する強靱かつ環境に優しい「国づくり」へ向けて、防災や気候変動対策等の取り組みが進められています。本市においては、本市の暮らしやまちづくりを支えてきた杜の都の風土を活かし、緑豊かでより質の高い都市を創造して未来へ継承していくための「百年の杜づくり」を進めているほか、これまでの幾度の災害で得た経験や知見を活かし、防災力や気候変動への適応力の向上を図るなどの「防災環境都市づくり」に取り組んでいるところです。

今後も、魅力的な都市として持続的に発展していくためには、「杜の都」の豊かな自然環境を活かし、快適な市民生活の確保や地域の賑わい創出、風格や品格を備えた美しい街並みの形成など、さらなる価値の向上を図る取り組みが求められます。また、「防災環境都市」を目指す本市としても、脱炭素社会を目指す取り組みと気候変動によるリスクに備えた適応策の両面を見据えた取り組みとともに、人材育成を含め都市全体として防災力を高める取り組みが求められます。そして、世界に誇れる個性的な都市ブランドを確立し、これらの取り組みを国内外に発信することが必要となります。

### ● 取り組みのイメージ

#### 【杜の都の深化と継承】

杜の都の資産の活用（青葉山、広瀬川等の自然・歴史資産や公園、街路樹等の都市の緑について、保全や適正な維持管理を行うとともに、市民がより身近に触れ、楽しむという視点に立った活用、建物更新時などにおける景観への配慮の強化、グリーンインフラ<sup>※2</sup>の導入など）

#### 【防災環境都市の推進】

仙台防災枠組 2015-2030<sup>※3</sup>を踏まえた防災環境都市づくり、東日本大震災の経験と教訓の継承・発信、災害への対応力の強化（防災意識の高い人材の育成、先端技術の導入等）、気候変動への適応、脱炭素社会実現へ向けた施策展開（消費エネルギー削減、再生可能エネルギー導入促進等）

#### ※2 グリーンインフラ

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。

#### ※3 仙台防災枠組 2015-2030

2015年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議で採択された2030年までの国際的な防災の取り組み指針。復興過程における「より良い復興」等の新しい考え方のほか、女性や若者のリーダーシップ、市民社会や学術機関、企業やメディア等の主体が参画し、連携することの重要性などが明記されている。

## 視点② 仙台でともに生きる ～多様性が生きるまちの実現～

### ● 視点（未来の状況）

立場や状況に関わらず、自分を相手に伝え、そして相手も受け止める、互いに相手をおもんばかった関係が自然に構築され、また、様々な価値観・立場の方々の考えをより良いまちづくりのために活かし合える社会を目指します。

### ● 施策形成の背景

国においては、「ニッポン一億総活躍プラン」を掲げ、子育て・介護等の環境整備、女性の活躍促進、高齢者や障害のある方など全ての方が暮らしや生きがいをもにつくり、高め合うことができる「地域共生社会」を目指す取り組みなど、多様性が尊重され、全ての方が包摂される社会が経済成長にもつながるという考えのもと、全員参加型の社会づくりに向けた取り組みが進められています。

本市においては、高齢者や障害のある方の生活の質の向上に向けた地域包括ケアシステムの構築や各福祉施設の整備、相談体制の充実を図るとともに、女性の活躍推進などの男女共同参画に向けた取り組みなどを進めています。また、政府による外国人材の受け入れ促進策や本市の外国人住民の増加などの状況を踏まえると、多文化共生に向けた基盤づくりは今後より一層重要になってくると考えられます。

多様性が生きる仙台の実現に向けては、平等に人権が尊重され、支え合う関係性を構築していくことはもとより、人生 100 年と言われる時代において健康寿命を延ばし、誰もが地域社会で活躍できる場や多様な主体が交流する場をつくることで、異なる視点の着想からイノベーションが生まれる環境を整えていくことが求められます。

### ● 取り組みのイメージ

#### 【共生交流社会の形成】

世代や性別、障害の有無、国籍を問わず、人の多様性の理解浸透に向け、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを受け継ぎ、各人の立場を実感できる場、スポーツや文化芸術、農業をはじめ様々なツールを生かした多世代・多様な主体間の交流環境の創出

#### 【支え合いと社会参画の促進】

世代、性別、障害の有無、国籍などを超えて、多様な主体がお互いを尊重し、心と命を守る支え合いの基盤づくりを進めるとともに、誰もが生きがいを感じながら健康的な社会生活を送り、活躍できる環境の構築

## 視点③ 仙台で暮らす ～地域コミュニティの強化～

### ● 視点（未来の状況）

人口減少・少子高齢化社会への対応に向け、基礎的な地域団体である町内会をはじめ、NPOや企業、学校など多様な主体が「協働」を積極的に実践することで、顔の見える関係が広がり、誰もが安全に安心して暮らせる地域社会を目指します。

### ● 施策形成の背景

人口減少や少子高齢化は本市の中でも地域ごとに濃淡を持って進行しており、地域のつながりの希薄化や活動の担い手不足などの懸念のほか、障害のある方やひとり暮らしの高齢者などの支援が必要な住民の増加、地域防災ニーズの高まりなど、地域特性による諸課題は多様化、複雑化しています。

その一方で、本市には町内会をはじめ、社会の多様なニーズに対応する市民活動団体や、地元根差し地域貢献に取り組む企業など、多岐にわたる分野で活躍している団体が多く存在していることから、多様な主体がそれぞれの長所や資源、アイデアを活かしながら、地域づくりに関わり、協働できる環境づくりが求められます。

### ● 取り組みのイメージ

#### 【基盤となる地域団体等の体制強化】

町内会をはじめとする地域団体やNPO等の市民活動団体が継続して活動できる環境づくり（地域活動への住民参加の促進、町内会活動等の担い手の確保・育成、活動支援の充実など）

#### 【地域課題解決への連携】

地域交通の確保や買い物弱者対策、見守りなど多様な地域課題のテーマに即して、住民、町内会等地域団体、NPO、教育機関、企業、起業家などが連携しやすい環境づくり（課題を共有する機会づくり・解決に向けた協働・実践の場づくり、各主体間の連携強化、コーディネーターを担える人材の育成・支援、地域コミュニティのあり方検討）

#### 【快適な居住環境の確保】

都心部及び郊外地域におけるそれぞれの地域特性に応じた安全安心で快適な居住環境の確保に係るアプローチの確立（空き家や空き地の管理・活用、老朽マンションの建て替え促進、地域特有の災害リスクへの対応など）

## 視点④ 仙台で育つ ～子ども・子育て応援まちづくり～

### ● 視点（未来の状況）

子どもたちとの関わりを通じて家庭、学校、地域などが相互に協力し連帯感を深め、このまちで子どもを産んで良かった、育てることができて良かったと思える環境をつくり、子どもたちが安心して学び遊んで、心身ともにたくましく育ち、社会に羽ばたける地域社会を目指します。

### ● 施策形成の背景

少子化や世帯態様の変化、働き方の多様化などに伴い、子育て環境や支援を要する子どもへの対応、学校教育に対するニーズは複雑化、多様化しています。

本市では、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない子育て支援、発達上の課題を有する子どものケアや子どもの貧困対策など子育て環境の充実に向けた取り組みを進めていますが、核家族化や地域のつながりの希薄化に伴う、孤立した育児環境に起因する子育ての不安や負担の増加などが懸念されています。

また、学校教育においては、人との関わりを大切にし、たくましく生きる力を育む「仙台自分づくり教育<sup>※4</sup>」など確かな学力の育成を進めていますが、自死事案の背景にあるいじめの問題について、「仙台市いじめの防止等に関する条例」のもと、二度と同じような事案が起きないように取り組みを徹底し、子どもたちが安心して学べる環境を整えることは喫緊の課題です。

本市を含め全国的にも0～4歳人口の割合の低下が進む中、前述の課題への対応はもとより、学校を含め地域社会一体となって未来を担う子どもたちを大切にし、一人ひとりの個性・探究心を大事に健やかな成長を応援するとともに、まちづくりのあらゆる分野に「子ども・子育て支援」の視点を持ち、子育て世代の満足度が高く、仙台で子どもを産み育てたいと思われる取り組みが求められます。

### ● 取り組みのイメージ

#### 【子育て応援社会の形成】

切れ目のない子育て支援施策の充実はもとより、関係機関との連携を含め、地域社会全体で見守る子ども・子育て世帯に優しい環境づくりや、全市的な子育て支援ネットワークの構築

#### 【学び（学校教育）の充実】

学校、家庭、地域、企業、行政の連携（社会全体で子どもを守り育む環境づくり、地域に対する子どもたちの愛着喚起等）、豊かな心や健やかな体、また、人としての思いやりや自分で考える力を育み、社会の著しい変化にも適応できる柔軟性を持った子どもの育成に向けた学びの質・環境の向上

#### ※4 仙台自分づくり教育

児童生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育む仙台版キャリア教育。



## 視点⑤ 仙台で学ぶ・活かす ～学びの環境づくりとチャレンジ応援～

### ● 視点（未来の状況）

多彩な学びを享受できる環境の充実が図られるとともに、大学をはじめとした教育機関のほか、学生や児童生徒が地域づくりに関わり、様々な主体とともに積極的に学び合える環境が構築され、あらゆるライフステージにおいて学びを活躍につなげるチャレンジを応援するまちを目指します。

### ● 施策形成の背景

人生 100 年時代と言われる中、働きながらの学び直しや、暮らしの質を高める生きがいづくりなど生涯を通した学びの重要性が高まっています。一方、少子高齢化などにより、地域において様々な活動を展開する担い手の不足が課題となっており、学びと地域の接続も期待されています。

本市では、市民センターなど地域に身近な拠点において地域づくりに関する講座の実施や市民同士の交流の機会の創出に取り組んでいます。また、学都として集積された大学の持つ力を多面的に生かすため、学都仙台コンソーシアム<sup>※5</sup>や個別の大学との協定に基づく取り組みなどを進めているところです。

人口減少や少子高齢化とともに地域のつながりや世代間交流の希薄化などの社会課題が顕在化してくる中で、教育機関の持つ知的資源や若者の柔軟な発想、「杜の都」の持つ歴史・文化資産なども積極的に活かしながら、地域への愛着を深めることはもとより、学びを次のアクション（チャレンジ）につなげる機運を高め、都市活力を生み出すまちづくりが求められます。

### ● 取り組みのイメージ

#### 【地学連携<sup>※6</sup>の場づくり】

教育機関（学生・生徒）と地域やNPO、企業をはじめとした各主体がつながり、まちの魅力創出や地域課題解決に向けた実践を重ねることができる場の創出（ともに学びながら人材が育つ環境整備（プラットフォーム、大学間の連携等）、知的資源の創出・活用など）

#### 【地域における学び・体験機会の創出】

地域住民、学生や児童生徒が多世代交流促進、地域に関する学び、体験学習などを通じて自ら進んで地域との交流を深め、仙台の歴史文化などと触れ合うことで、地域への愛着を育む好循環の創出

#### 【多様な学びの環境の充実】

歴史文化・自然科学等の生涯学習施設等を活用した学びや「楽都」としての事業展開など文化芸術により親しむ環境のほか、高齢者の学び直し、新たなスキルを身に付けるリカレント教育<sup>※7</sup>など、目的に応じた多様な学びの機会の創出

#### ※5 学都仙台コンソーシアム

大学等の高等教育機関と市民・企業・行政がともに高め合い、相互に発展の機会を創造することを目指して設立された組織。サテライトキャンパス公開講座や大学等間における単位互換ネットワーク等の事業を行う。

#### ※6 地学連携

大学をはじめとする教育機関（学生・生徒）が、地域の現場に入り、住民や町内会をはじめとする地域団体、NPO等と連携して地域課題の解決や地域づくりに取り組むこと。

#### ※7 リカレント教育

義務教育、基礎教育を終えた後、誰もがいくつになってもライフスタイルに応じたキャリア選択を行い、新たなステージで求められる能力やスキルを身に付けるなど生涯にわたって教育と就労を繰り返す再教育システム。

## 視点⑥ 仙台で働く ～働く場所として選ばれる環境づくり～

### ● 視点（未来の状況）

地元企業の経営力・魅力が向上し、また、付加価値の高い産業の集積、働きがいやチャレンジしやすいといった観点で、働く場所として選ばれ、多様な人材の力が地域経済の活性化を促進させるまちを目指します。

### ● 施策形成の背景

本市は就職期にある20代の若者の転出超過が続いていることが課題であり、近年は、就職売り手市場と言われていますが、働きたい企業が見つからない、あるいは働き手が見つからないといったアンマッチが生じている状況にあります。

本市では若者の地元定着を図るために、地元企業の成長支援や魅力を伝える取り組みを行っています。また、東日本大震災以降「日本一起業しやすいまち」を掲げて注力してきた起業支援、高度情報化の流れを背景としたICTを活用した様々な分野との協業促進のほか、立地が決定した次世代放射光施設の運用を見据えた取り組みを開始するなど、仕事の選択肢の拡大へ向け着実に歩みを進めているところです。

本市が働く場所として選ばれるためには、地域経済をけん引する魅力ある中核企業の輩出、働きがいや雇用の創出に寄与する起業環境のさらなる充実などが求められます。また、女性の就労継続支援、高齢者等の再就職のニーズへの対応、キャリアアップ等のためのリカレント教育、子育てや介護など個々の状況に応じた多様な働き方が認められる環境づくりがより重要となってきます。

### ● 取り組みのイメージ

#### 【地元企業等支援】

地元企業等の成長や新たなチャレンジを応援し、魅力の向上を図るとともに、雇用確保に向けた発信力の強化を後押しする取り組み（地域経済への高い波及効果が期待される企業の成長支援、域内の経済循環促進、農業の高付加価値化、海外等への市場開拓、若者の地元定着策など）

#### 【イノベーションによる成長促進】

ICTによる地域産業の高度化や次世代放射光施設<sup>※8</sup>の立地を生かした研究開発拠点の集積促進、起業・創業などのチャレンジがしやすい環境づくり（経済成長と社会課題解決の両立を目指した地域経済システムの構築、起業・創業後のフォローアップなど）

#### 【多様な働き方の実現】

働く場所、時間などライフステージに応じた柔軟な就労が実現され、リカレント教育など個々のスキルアップに取り組みやすい多様な人材が活躍できる環境づくり（企業の組織変革力の強化）

※8 次世代放射光施設

ナノメートル（100万分の1ミリメートル）の世界を見ることが出来る強力な光を使った巨大な顕微鏡であり、原子・分子の構造などこれまでは見ることができなかった細かい領域の情報を得ることが出来る最先端の研究施設。東北大学青葉山新キャンパスへの整備が決定している。



## 視点⑦ 躍動する仙台を創る ～都心再構築と交流都市づくり～

### ● 視点（未来の状況）

東北の中核である仙台を象徴するエリアとして、都心においてビジネス面を中心に民間投資を呼び込む魅力的な都市機能を備えるとともに、国内外から人が交流を求め集う、楽しめるまちとしての活力と賑わいの創出を目指します。

### ● 施策形成の背景

これまで本市は、まちづくりを支える公共交通体系の骨格となる地下鉄東西線の整備と、泉中央や長町、荒井など地下鉄沿線への地域特性に応じた都市機能の集積に取り組んできましたが、都心においては、老朽化した建築物の更新が進まず、企業進出に対応したビルの供給が停滞しているほか、仙台駅周辺に人の流れが集中するなど、防災面や都心全体の活力などに問題が顕在化してきています。また、人口減少社会の到来を見据え、交流人口のさらなる拡大を図り、地域経済を活性化させていく上で、東北のゲートウェイとして本市の役割の重要性は一層高まっています。

このため、集積された都市機能や首都圏から近距離であることの優位性、定禅寺通や青葉通などの自然と調和した都市空間、西部地域の自然観光資源と都心との近接性など仙台ならではの魅力を活かしながら、国内外との交流拠点として、さらなる民間投資の呼び込み、都心の賑わいづくりや楽しめる環境づくり、東北の市町村と連携した効果的な広域観光の推進など、東北・仙台都市圏全体の活力創出に向けた取り組みが求められます。

### ● 取り組みのイメージ

#### 【投資促進】

民間投資の呼び込み（仙台駅周辺をはじめ、高度な都市機能を有し賑わい創出に資するビルの建設誘導、老朽化した建物の改修・更新の促進など）

#### 【賑わい創出】

定禅寺通の活性化や本庁舎建て替え等を契機とした都心部全体における面的な賑わいの創出（歩いて楽しめる環境づくり（回遊性向上・都心交通のあり方検討、公共空間の有効活用など）、通りごとの魅力づくり、中心部商店街の活性化など）

#### 【交流人口拡大】

東北の玄関口としての拠点性の向上、交流人口ビジネスの活性化（歴史文化資産や体験プログラムなど観光コンテンツの充実、多様な事業者の参画や育成、来仙者の受入環境整備、東北の魅力発信強化など）

## IV 持続可能な都市運営に向けて

Ⅲの7つの重点的な取り組みの視点に基づく施策を推進していくためには、多様な主体がそれぞれの持つ知恵や経験、資源を補完し合い、皆でまちづくりを進める「市民協働」が不可欠です。

また、行政として、持続的な行政サービスの提供に向けた、安定的な財政基盤の構築も重要であり、これらについては、今後の協議課題としていきます。



## 仙台市総合計画審議会における審議経過

仙台市総合計画審議会  
(事務局 仙台市まちづくり政策局政策企画部政策企画課)  
〒980-8671  
仙台市青葉区国分町三丁目7番1号  
TEL. 022-214-1268

令和元(2019)年7月